Literature cited

- Doepp, W. (1932) *Planta* 17. Fitting, H. (1900) *Bot. Ztg.* Jg. 1900.
 Lenoir, M. (1934) *Cellule* 42. Ma, R. M. (1931) *Bull. Torrey Bot. Club* 57.
 Marquette, W. (1907) *Beihfte Bot. Centralbl.* 21. Sapehin, A. A. (1915) *Arch. Zelf.* 13
 Senjaninova, M. (1927) *Zeitschr. Zellf. mikr. Anat.* 6.

和文標題及ビ摘要

二十數種の蕨苔，半齒植物の孢子母細胞を用いて，還元分裂前期特に花束期におけるプラスチッドの行動観察及び糖，澱粉，脂肪に關する組織化學的検査を行い，次の結果を得た。

1) 花束期の孢子母細胞では，花束像をなす染色体が核膜に附着する部分——花束像の基部——の逆側の細胞質中核膜に近い部分に，或る種の極（プラスチッド極）が形成される。

2) この極は澱粉形成中のプラスチッド及び脂肪形成中の脂肪粒を引き集める性質がある。

(京都大學 理學部 植物學教室)

秋山茂雄 極東亞産スゲ屬植物の分類*

Shigeo AKIYAMA : On the classification of *Carices* indigenous to the Far Eastern region of Asia.

生育地を樺太，千島より南下して台灣にいたる列島，朝鮮半島，之等に近接する小島嶼とする346種，75變種，10品種についての分類學的，特に各節の配置に關する觀察結果を略解した。現在之等を61節に分類せしめる方針である。本属の分類に關しては極地的，世界的を通じて種々の見解が表明せられているが之等を考證して，ここには結局亞屬を全廢する説を採用する意圖である。また各節の配置も1列とするには養成し難く，即ちある特徴を主とし，他を従とする時はその特徴の撰定に應じて各種各様の分類形式を生ずるものと見られるのであつて，よつて先人の諸考察に愚見も加え，多くの特徴を綜合して各節の聯絡配置を審査することとした。

その數例をあげれば *Kükenthal* の互に別の亞屬に分屬せしめたシラコスゲ，ミヤマジユズスゲとジユズスゲ，或はカヤツリスゲとジョウロウスゲには酷似した所もあり，同じく *Indocarex* とした特徴に當るものは *Eucarex* に入れられた數種に偶々實見され，これは殊に *Vigneæ* と近縁とされたことのあるナキリスゲ節に屢々見受けられる。*Pax* によると *Indocarex* に當るものをに當るものと近接せしめてある。*Eucarex* のものゝ發育不充分的際に *Primocarex* 型をなす事あり，また *Eucarex* の中でも小穂の形狀は種々な形式を見られる。雌雄花の配置状態は *Primocarex* と *Vigneæ* とで特定をなさず，柱頭の數で必ずしも大別するに利用し得ないことは既に認められている。こうした例はいたる所に見受けられ，結局先人の考慮せられた小穂の數及び配置，柱頭の數，雌雄花の配置，囊苞や堅果の形狀をはじめ多くの特徴を綜見し，また形態學的論據を参照して考察したものである。

* 昭和23年8月7日札幌支部第2回月次例會に於いて講演がなされた。